

くみえ
日本ケーブルテレビ連盟・映画制作会社「組画」共同制作
東日本大震災ドキュメンタリー番組

- 優 - (仮題)

「生かされた命」- 気仙沼湾に輝く未来への一步を踏みしめて



2012年3月～
全国ケーブルテレビにて
ON AIR

祖父が遺した一枚の画。それを見つめる孫の優(ゆう)。

震災から9ヶ月経った冬 -
彼女は祖父の描いた気仙沼の海をもう一度、自らのまなざしで見つめはじめた。

これは、一人の少女の成長を描きながら、
街の復興と人間の葛藤が浮彫りにされていく未来へ託す物語。

(三陸ブロードネット(株)(岩手県釜石市)、宮城ケーブルテレビ(株)(宮城県塩釜市)の映像も交えて制作。)

監督・撮影：北條美穂



何が出来るのか。震災後の自分はこの事実から、あえて遠ざかっていたように思います。しかし、ある時ふと、記憶は時間とともに薄れ、大事なことをも忘れてしまう怖さを感じました。ある家族が語った「忘れたい想い」と「忘れたくない想い」があるということ。例えば、その想いを記録することができるなら。そうして、そこに自分が一緒に存在する様にこの作品を世に送り出したいと思います。

●プロフィール

大阪府生まれ。ビジュアルアーツ専門学校大阪 放送映画学科卒業。
河瀬直美監督作品のチョンジュ国際映画祭デジタルプロジェクト作品『狼』(2009)、
ドキュメンタリー作品『玄靴-げんびん-』(2010)、劇映画『朱花(はねづ)の月』(2011)に監督助手として参加。
今回、初の監督作品となる。

監修：河瀬直美



ここには、震災から歩き始めようとするひとつの家族の姿があるがままに描かれます。その中でも希望の光のように小学6年生の少女が紡ぐ言葉に、大人たちは「はっ」とさせられます。きらきらと輝く気仙沼湾に託す未来の姿。それは、子供たちの無垢な心にこそ存在しているのかもしれない。

●プロフィール

奈良県生まれ。大阪写真専門学校(現ビジュアルアーツ専門学校大阪)映画科卒業。
劇場映画デビュー作『萌の朱雀』で1997年カンヌ国際映画祭新人監督賞を史上最年少で受賞し、
07年人間の生と死を見つめた作品『殯の森』は「審査員特別大賞グランプリ」を受賞。
更に09年には、同映画祭に貢献した監督に贈られる「黄金の馬車賞」を受賞。
その後、ドキュメンタリー映画『玄靴-げんびん-』(10)を発表し、2011年の新作『朱花の月』は、
カンヌ国際映画祭コンペティション部門にノミネートされる。
「なら国際映画祭」ではエグゼグティブディレクターも務める。